

2024 年度 自己評価結果

社会福祉法人聖隷福祉事業団

野上あゆみ保育園

あなた方も愛によってあゆみなさい (エフェソの信徒への手紙 5章1節～2節)
私たちが神様に愛されていかされているように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守ります。

<保育・教育理念>

保育の基礎をキリスト教におき、神の愛を伝えます。

- ① 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る。
- ② ひとりひとりの違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす。
- ③ 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる。

保育所保育指針を軸に園内で作成した自己評価を使用し、職員各自で自己評価を行いました。その後、グループワークを行い自己評価の結果から見えてきた園の課題を抽出しました。見えてきた課題を次年度の取り組みにつなげていきたいと思えます。

内容	自己評価 課題
安全管理・災害 (不審者対応)	・防犯対策への意識は年々高まってきているが、まだ足りないと感じる。どんな対策が出来るか話し合って進めていきたい。 →次年度4月より保護者全員対象にIDカードを導入。 →警察署に講習を依頼し、職員が防犯講習会に参加する。
自分の気づき・ 振り返り (課題見つけ)	・大人も苦手な所(課題)より得意な所や強みを伸ばしていく。一人一人の得意なことを伸ばすことで、おのずと園の強みが増えていく。また、人の良い所はどんどん真似して実践に取り入れていく。
自分の気づき・ 振り返り (職員連携)	・日々、担任間で子どもの事について語り合い共有することで、新たな発見がある。そこから次の保育へと展開していく。保育士主導ではなく子ども主体の保育にもつながりやすい。
全体を通して	・今年度は「子ども主体の保育」を意識して取り組んだ。子どもの声に耳を傾け、「やってみたい」に応えるべく保育を展開した。行事も子どもの思いを大切にし、一緒に準備を進めることで、参加意欲が高まり達成感を味わいながら行事を終えることができた。 SDGsも積極的に取り入れ、子どもからも「もったいない」やSDGsを意識した声が聞かれるようになった。SDGsは長いスパンで今後も取り組んでいく。